

開発教育指導者研修(実践編) 第3回 記録

■ 開催概要

- ◆ 日時 : 平成 26 年 8 月 23 日 (土) 13:00~17:00、24 (日) 10:00~17:00
- ◆ 場所 : なごや地球ひろば2階 セミナールーム A
- ◆ 参加者数 : [1 日目] 受講者 42 名、JICA 5 名、NIED 4 名、オブザーバー3 名、合計 54 名
: [2 日目] 受講者 42 名、JICA 5 名、NIED 4 名、オブザーバー3 名、合計 54 名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子さん

■ 第3回のねらい

★開発教育・国際理解教育の実践に向けて、参加型プログラムの作り方を学ぶ。

- ① 多様な視点から考えること、気づきと築きを促すことに役立つ参加型手法について習熟する。
- ② アクティビティを活かした流れのあるプログラムを実際に作ってみる。
- ③ ファシリテーション実践を通して、参加型とファシリテーターのポイントを確認し持ち帰る。
- ④ 教師海外研修参加者の学びと気づきを共有し、ガーナとラオスに近づく。

■ プログラムの内容

● セッション1 「参加型プログラムの作り方 基礎基盤」

★ 参加のためのウォーミングアップ

1. 研修全体像と第3回のねらいの確認 13:03-[7]

- ◇ J I C A 木村職員が開会の挨拶を行った。オブザーバー参加の3名を紹介した。
- ◇ レジュメを基に、研修全体像及び第3回のねらいについて、ファシリテーターが説明した。

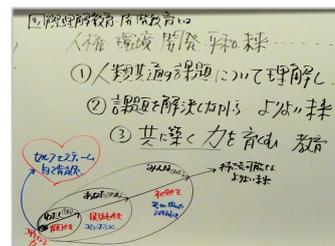
2. アイスブレイキング…名刺で自己紹介 13:10-[24]

- ◇ 4つの自己紹介の項目(①自分を表す肯定的な形容詞・形容動詞、②わたしが幸せを感じる時、③最近わたしが発見したこと、④昨年ではできなかったが今はできていること3つ)を、各自A4用紙に書き、自己紹介シートを作った。



3. 開発教育・国際理解教育の目的の再確認とセルフエスティーム 13:34-[6]

- ◇ 板書を基に、開発教育・国際理解教育の目的とセルフエスティームの大切さについて、ファシリテーターが解説した。
- ◇ 開発教育・国際理解教育の目的…「人権、環境、開発、平和、未来など、①人類共通の課題について理解し、②課題を解決しながらよりよい未来を、③共に築く力を育む教育」
- ◇ セルフエスティームの大切さ…「先の名刺で自己紹介は、自分自身を見つめてみる、自分には良いところがあると思ひ出して認めるためのアクティビティである。



いつまでも学ぶことがある、学ぶことがあるということは変化の主人公であること、大人になると成長が見えにくいが、毎日進歩しているより良く変わってきている私たちであることを意識することが大切である。それがセルフエスティーム=自己肯定感であり、その先に他者との関係性・コミュニケーションがあり、社会性・参加協力や対立解決があり、こうしたわたし・あなた・みんなのスキルを高めることが、持続可能なよりよい未来につながるために必要と考える。」

4. 第2回研修のふりかえり 13:40-[33]

- ◇ 第2回研修の記録を各自読み、印象に残ったところ3点をグループで発表し合った。
- ◇ 印象に残ったところをグループで共有した後の感想を、全体で何人かが発表した。

★参加型学習プログラムの作り方 -----

5. 過去2回のプログラムをねらいと流れという視点でふりかえる 14:13-[10]

- ◇ 配付資料を基に、「プログラムの定義、目的、ポイント」についてファシリテーターが説明した。
- ◇ 第1回～第2回に行ったそれぞれのアクティビティの「ねらい」「内容」「手法」について解説した配付資料を基に、どのような流れや趣旨でプログラムが作られているのか説明した。
- ◇ プログラムづくりに関する資料の1ページ目を基に、そのポイントをファシリテーターが説明した。

「ねらい」…何を知るため？／何を考えるため？／何に気づくため？／何を考え出すため？
 「ながれ」…参加者・学習者の意識の流れに沿う段階的な学び
 知り、考え、気づき、築く or 一人で考える+他者から学び・気づくをつなぐ

6. 過去2回のプログラムを3つの視点でふりかえる 14:23-[40]

- ◇ 第1回～第2回に行ったアクティビティ解説資料を基に、グループで話し合いながら、それぞれのアクティビティの「学びの形態」「学ぶ人数」「考えるための枠組み=参加型手法」がどのようだったか思い起こし、共有した。
- ◇ 配付資料にある12の手法のうち第1回～第2回でまだ取り扱っていない手法をピックアップし、全体で発表した。
- ◇ 以下の参加型学習のポイントをファシリテーター解説した。



・みんなが先生・みんなが生徒 ～主体的な学びと学びあいによる「学びの分有」～
 ・1人で！ペアで！グループ！全体で！ ～安心、集中、相乗効果～
 ・いつもとは異なる枠組みで考える！ ～気づき・発見を促すための多様な参加型手法～

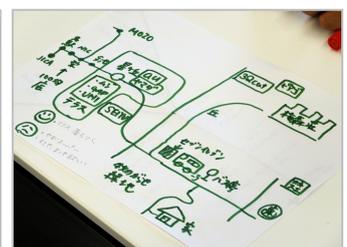
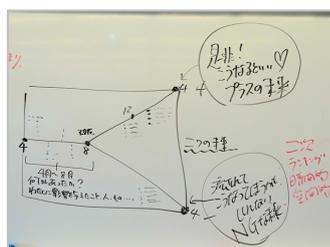
- 休憩 - 15:03-[14]

● セッション2 「習熟・参加型手法～習うより真似る・慣れる！」

★参加型にも適材適所～どんな手法があるのか？どんなときに効果的か？～-----

1. ここまで研修で使わなかった手法の解説と体験 15:17-[54]

- ◇ 「二次元軸」…使用法の具体例をファシリテーターが説明した。
- ◇ 「ランキング」…自分らしく生きるために大切なことを各自9つ付せん紙に書いて、ダイヤモンドランキングを行った。その後、上位3位をグループで紹介し合った。その後、誰にでも大切なものの優先順位をつけるために話し合った。(左写真)
- ◇ 「時間で捉える」…4～8月に私に影響を与えた人・もの等をA4用紙左半分到时系列で書き位、右半分の上側には、「是非こうなるといいプラスの未来」を、下半分には「流されてこうなってしまうかもしれないNGな未来」を各自書き、気づいたこと、わかったことをグループで共有した。(中写真)
- ◇ 「空間で捉える」…自分が住んでいる家を中心に地域の地図を描き、その中にお気に入りの場所(♡マーク)、好きじゃない場所(ドクロマーク)、最近急激に変化したと感じる場所(☆マーク)を書き入れ、感じたこと、わかったことをグループ内で共有した。(右写真)



2. グループ替えと一言自己紹介 16:11-[6]

- ◇ グループでじゃんけんをして、勝った2人が隣に、負けた2人が逆隣に移動してグループ替えを行った。
- ◇ 「わたしにとって懐かしい音」をお題に新しいグループで一言自己紹介を行った。

3. アクティビティと手法の関係理解 16:20-[41]

- ◇ JICA 中部発行『教室から地球へ～開発教育・国際理解教育虎の巻』にある参加型手法についてグループメンバーが分担して各参加型手法を使ったアクティビティを作り、グループ内で発表し合った。



4. プログラムとアクティビティの関係 17:01-[4]

- ◇ ファシリテーターが以下の内容について解説した。

- ・アクティビティは、「ねらい」+「内容」+「手法」の組み合わせで出来ている。
- ・手法をたくさん知っているメリットは、多様な視点で学習者が考えることを支援することができる
- ・プログラムをつくるうえで大切なことは「ねらい」と「流れ」である。
 - ① ねらい…何を知るため？何を考えるため？何に気づくため？何を考え出すため？
 - ② 流れ…参加者の意識の流れに沿う段階的な学び。知り、考え、気づき、築く。

5. 1日目のふりかえり 17:05-[5]

- ◇ 1日目をふりかえり、感じたこと、気づいたこと、わかったことを、グループで発表し合った。

★ 17:10 終了

● セッション3 「教師海外研修報告」

1. ガーナ教師海外研修チーム報告 10:02-[28]

- ◇ 同行ファシリテーターが主なガーナの訪問先ごとの写真の解説した後、ガーナチームが教師海外研修の学びの柱である「①ガーナに肯定的に出会う」、「②日本とのつながりに気づく」、「③課題を共に考え共に越える」ごとに担当した小チームがどんな学びがあったか現地の写真を紹介しながら発表した。



2. ラオス教師海外研修チーム報告 10:30-[25]

- ◇ 同行ファシリテーターがラオスの主な訪問都市を、地図を使って紹介した後、ラオスチームが、「①ラオスの人の大切なもの」、「②ラオスの文化・国民性に関する三択クイズ」、「③JICAの開発援助の主な現場での気づき」を発表した。最後に、現地の交流会で披露した「AKB48のヘビーローテンション」のダンスを再現した。

● セッション4 「プログラムを作ろう！」

1. プログラムづくりチームの確認と一言自己紹介 10:55-[15]

- ◇ 本研修受講リピーター1人、教師海外研修受講者2～3人、男女比を考慮し、7人グループを7つ作った。
- ◇ 「行ってみたい国とその理由」をお題にグループ内で一言自己紹介を行った。

2. 4つのそれぞれのテーマに関する理解 11:10-[5]

- ◇ 予め用意した「貧困」、「環境」、「豊かさ・幸せ」、「共生」というテーマを、各グループに無作為に割り振った。
- ◇ 配付資料を基に、グループ内で担当するテーマを扱う際のねらい例集を読み、ねらいのイメージを膨らませた。

3. ねらいの設定 11:15-[39]

- ◇ 各グループ内で、担当したテーマについてイメージすること、ねらいとして設定したいことに関することをブレインストーミングで自由に書き出した。
- ◇ グループ内で、担当したテーマについて、学習者が「何を知るようになるといいか」、「どう行動するようになるといいか」を考え対比表にまとめた。その後、学習者の意識に沿って流れのあるプログラム化するために、対比表に出された項目に順番をつけた。



【作成したプログラムのねらい・プログラム展開】

テーマ	ねらい	プログラムの展開（起承転結）
貧困	「貧困があるということに気付く」「貧困を解決する方法を考えようとするができる」	起「自分の夢は何かを考える」→承「夢を叶えるために必要なことを考え、学校に行けなかったらを考える」→転「学校に行けない子を知り、どうして学校に行けないのかを考える」→結「どうすれば貧困を解決できるかを考える」
貧困	「貧困と自分とのかかわりに気づく」「自分の生き方を考える」	起「日本は豊か？」→承「世界は豊か？」→転「豊かって何？」→結「自分の生き方を考えよう～あなたは豊か？～」
環境	「身近な食と世界とのつながりに気付く」「持続可能な暮らしに問題意識を持つ」	起「環境破壊につながっているお菓子はどれ？」→承「材料の裏を探ろう」→転「よりよい未来を描こう」→結「何をどのようにしていくか考えよう」
豊かさ・幸せ	「日本の食卓と世界との繋がりに気付く」「世界の食卓も豊かにするために、まず自分たちは何ができるかを考える」	起「昨日の晩御飯の食材から世界との繋がりに関心を持つ」→承「データで事実を知る。フードマイレージで食材を詳しく知る」→転「世界の食卓・食糧事情を知る」→結「みんなが幸せな食卓を囲めるようにするための方法について考える」
豊かさ・幸せ	「それぞれの幸せについて知る」「幸せの多様性に気付く」	起「自分にとっての幸せとは？」→承「あなたにとっての幸せとは？」→転「世界の人々にとっての幸せとは？」→結「幸せとは？」
共生	「世界の多様なじゃんけんを知る」「じゃんけんや他の解決方法の各々の良さに気付く」	起「世界のじゃんけんをやろう！」→承「どんな場面でじゃんけんを使うのだろう」→転「もしじゃんけんがなかったら？」→結「考えてみよう！じゃんけんとガーナ式のメリットとデメリット」
共生	「違いを肯定的にとらえる」「人間関係を豊かにするために自分ができることを考える」	起「クラスの中の多様性に気付く」→承「多様性があることのメリット」→転「多様性の良さに気付く」→結「人間関係を豊かにするために自分ができることを考える」

2. 他のグループメンバーからの評価の確認 16:00-[12]

- ◇ 2種の付せん紙を発表者に渡し、内容を確認した。
- ◇ ミックスグループ内で、7つのプログラムを実践・体験してみて、感じたこと、気づいたことを発表し合った。

3. プログラム作成チームでのふりかえり 16:12-[8]

- ◇ プログラム作成チームに戻り、よかった&より良くするための提案を共有し、プログラムやファシリテーションについて振り返った。

4. 人がよりよく学びよりよく変わることに寄り添うファシリテーターのポイント 7カ条 16:20-[25]

- ◇ より良い参加型とファシリテーターのポイント（大切と思うこと、心掛けると良いと思うこと）を各自5つ考え、A4用紙に書いた。
- ◇ 各自が書いた内容を同じことは言わない方式で1つずつ発表した後、グループで7箇条にまとめ、横造紙に書いた。
- ◇ 全体で読み上げ発表した。→内容は次ページ参照。
- ◇ Fコメント…「やってみてわかる、人のファシリテーションを見てわかる、提案を受けてわかる、すべてやってみてわかることである。学習者が、考えを深め、より良く学び、変わっていくことに寄り添うことができることがファシリテーターである。」



5. JICA TIME 16:45-[16]

- ◇ 市民参加協力課酒井調整員が、以下の内容について紹介した。

- ・グローバル教育コンクール
- ・エッセイコンテスト
- ・JICA ボランティア（概要、目的、派遣国数、派遣人数、JICA の支援体制 現職参加、現職教員特別参加制度、活動で得られるもの、評価など）
- ・出前講座、なごや地球ひろば訪問、アートマイル壁画制作、学校だより
- ・研修スキルを生かす中部 BQOE 研究会、はままつ国際理解教育ネット、各県の開発教育指導者研修（初級編）



6. 全体ふりかえり 17:01-[4]

- ◇ 第3回研修を通して、わかったこと、発見したと思ったこと、実践しようと思ったこと、感じたことなどを3つ、

A4用紙に書いて、グループ内で発表し合った。

7. フォーラムに向けた準備についての説明 17:05-[5]

◇ 第3回研修から第4回研修にかけて行う実践の内容を報告する実践報告フォーラムに向けて、準備しておいてほしいことを、昨年度のフォーラムの写真を見せながら、事務局が説明した。

★ 17:10 終了

【「人がよりよく学びよりよく変わることに寄り添うファシリテーターのポイント7カ条」の成果】

- | | |
|---|-------------------|
| ① 参加しやすい雰囲気づくり | ①楽しんで、楽しませる |
| ② 多様性を肯定的に受け止める | ②ねらいと流れが明確 |
| ③ ねらいを常に意識する | ③適切な力配分（時間・内容） |
| ④ 臨機応返に対応する | ④客観性（データ・主張・許容） |
| ⑤ 自分も楽しむ | ⑤目配り、気配り |
| ⑥ 教えるのではなく、引き出す | ⑥柔軟性 |
| ⑦ レイチェルを越える！！ | ⑦知識、理解で終わらず、行動へ！！ |
| ① みんなが楽しめる雰囲気づくり | ①タイムマネジメント能力 |
| ② あらゆる意見を受け入れる | ②柔軟性がある |
| ③ 参加者の心に寄り添う | ③活性化する場づくり |
| ④ ねらいとプログラムのつながり | ④準備バッチシ！！ |
| ⑤ 自分の言葉で語れる（しゃべりすぎ注意！） | ⑤経験・情報が豊富 |
| ⑥ 指示が超的確 | ⑥ビジョン（ねらい）が明確 |
| ⑦ 信じる心 | ⑦忍耐力 |
| ① 明るい人 | ① 笑顔 |
| ② 飽きさせない | ② ねらいが明確 |
| ③ 肯定的に受け止める | ③ 指示がわかりやすい |
| ④ 学ぶことが好き | ④ 時間のコントロールをする |
| ⑤ 全員を参加させる | ⑤ 参加者が主役 |
| ⑥ 空気を読む | ⑥ 手法の引き出しが多い |
| ⑦ 楽しめる | ⑦ 謙虚な姿勢 |
| ① しっかり振り返りをする | |
| ② 目的を明確にもつ | |
| ③ 怖れずとりあえずやってみる | |
| ④ 参加者に合った内容・情報を準備し、流れにメリハリを | |
| ⑤ 話しすぎず、参加者に話してもらう | |
| ⑥ 終わったあと、楽しかった何か一つ行動してみようと思わせる | |
| ⑦ 参加者とともにまなぶ | |
| ① 楽しむ！楽しく学ぶ場と方法を提供する | |
| ② ねらいを明確に、流れを大切に、それたらねらいにもどる！でも柔軟に | |
| ③ 対等でいいいなコミュニケーションを促進する。ひとりひとりを大切に！肯定的な場のムードをつくる！ | |
| ④ 参加者に伝えるべきこと、考え出してもらうこと、まかせることを区別する | |
| ⑤ 集中を持続させる、多様な手法を活用する | |
| ⑥ 未来への希望を持つ！ | |
| ⑦ 参加者を信じる！自分を信じる！参加型の力を信じる！ | |

ファシリテーター
より